【第２号議案－２】

# ２０２４年度事業計画（案）

## １．基本方針

２０２４年度は、引き続き「包装学の深化と体系化、社会の要請に応えうる開かれた学会づくり、包装分野を担う次世代人材の育成、国際化の推進」を柱に事業を展開します。具体的事業としては、会員相互の研究情報の交換・啓発のための研究発表会、シンポジウム、各種研究会等の開催、並びに学会誌「日本包装学会誌」の刊行などです。以上の目標を実現するために、以下の方針を立てます。

学会活動の中核となる若手会員

産・官・学・民の会員が融合し形成されている「包装学」の特色を生かし、次世代の研究開発を担う若手のより積極的で具体的な入会勧誘とともに、各種のイベントや委員会活動においてこれまでにない視点での運営を若手主体で実施することを検討します。

異分野共創による次世代型包装技術への展開

裾野が広く文理融合化していくサスティナブル型包装技術を次世代に繋げていくために、様々な学術・技術分野との人的交流を積極的に展開する具体的な取り組みについて検討します。

包装学術・技術情報の発信による会員増強への取り組み

裾野の広い包装分野を対象にした学術団体としてこれまで蓄積されてきた学術・技術情報をアクセスしやすい媒体として広く発信する取り組みをさらにすすめるとともに、質の高い情報の交流と研究成果発表の場を提供することによって会員増強の取り組みを強化していきます。

## ２．学会の運営計画

### ２－１．通常総会

対面方式、メール配信、ｗｅｂ審議等による開催を計画する。

### ２－２．理事会

２回または３回開催の予定とする。

### ２－３．会長補佐会議

２回または３回開催の予定とする。ただし、緊急性の高い審議事項のある場合は、臨時に開催するものとする。

## ３．各委員会の活動計画

### ３－１．編集委員会

- 論文等の査読・掲載、特集の企画、学会誌発行、編集委員会の開催を行う。
- Ｊ－ＳＴＡＧＥへの一般論文、技術報告、ノートの登載を開始する（Ｖｏｌ．３３　Ｎｏ．６からの予定)。
- 広報委員会と協力し、学会ＨＰへの学会誌コンテンツの掲載を拡充する。
- 委員数を上限の２０名で維持し、委員会内の交流を活発化する。

長期的活動方針

- 学会外に対する認知を高め、論文投稿数を増加する。
- 時機を得た特集、会員にニーズが高く有益な情報を学会誌に掲載する。
- 総説を少なくとも年に２回を目標に掲載する。
- 上記に基づく会員増に努める。

他委員会との協働
・　企画委員会のシンポジウムテーマと学会誌の特集テーマについて、事前に情報交換を行い、シナジー効果の創出を図りたい。

３－２．企画委員会
・　シンポジウムを２回開催する。第９１回：２０２４年6月１４日に「環境を取り巻く国際動向とパッケージの潮流を考える」について開催決定。また、第９２回を２０２５年7月2日に開催予定。
・　１１月頃に開催していた医薬品に関するテーマは、体制整備のため休みとする。
・　各シンポジウムの企画および状況に関する確認と委員間の意思統一を図るため、企画委員会を３回以上オンライン形式で開催する（第１４６回：２０２４年4月２４日開催済、第１４７回：２０２４年9月末～１０月上旬予定、また、Ｒ７年度向けとあわせて第148回：2024年12月上旬～２０２５年7月上旬予定）。
・　企画立案の参考とするため、アンケート調査を２回のシンポジウムのうち、どちらかで実施する。

長期的活動方針
・　企画委員会は完全オンライン化。
・　医薬品テーマでの集客および委員の確保が困難であるため、１１月頃のテーマを「医薬品」から「パーソナルケア・化粧品・医薬品」に変更する。これにより１１月担当委員および「素材・サスティナブル」などをテーマとする２月の委員を再編成する。具体的には、花王の児玉委員を１１月担当とし、２月担当に新委員を補充する。
・　委員の負担軽減の一環として、Ｚｏｏｍの録画機能を併用し、議事録を簡略化する。

他委員会との協働
・　シンポジウムの講演者に日本包装学会誌の解説記事を依頼する、あるいはその逆など、編集委員会との連携を想定。

３－３．研究委員会
（１）バリア材料研究会
第 27 回バリア材料研究会を開催する。
（２）輸送包装研究会
輸送包装研究発表会 2024 を開催する。幹事交代を含めた体制変更を進める。
（３）包装とＩｏＴ研究会
研究会終了に向けた手続きを完了させる。
（４）若手の会
・アンケート結果に基づき、若手の会主催の交流イベントを 8 月 27 日(火)に開催する。
・編集委員会と連携し Vol.33 No.3 で特集として若手研究者・技術者紹介を企画する。

長期的活動方針
包装とＩｏＴ研究会は研究会の存続が困難となったことから２０２４年に終了。以降は３つの研究会を継続し、当会の活動を通じて学会の活性化をめざす。各研究会の長期的活動方針は次のとおりである。
・バリア材料研究会　国内の関連産業支援を目的に、情報交換・人材交流の場を提供する。
・輸送包装研究会　　輸送包装全般に関する情報交換や人材交流の場を提供する。
・若手の会　　学会の振興につながる活動を継続して実施する。

他委員会との協働
広報委員会、編集委員会との連携により、研究会イベント開催案内（ＷＥＢサイト掲載、メールマガジン配布、学会誌への案内）を効率的に行う

３－４．大会運営委員会

初会場である東京海洋大学　越中島キャンパスにて、会場発表とオンラインライブ配信を組み合わせたハイブリッド形式による第３３回年次大会（国際包装セミナーＩＰＳ’２４同時開催を含む）を開催させるため、２０２３年度に引き続き会議室とＴｅａｍｓ会議の併用による運営委員会にて、より良き大会とすべく鋭意準備を進めている。

（１）第３３回年次大会に向けた委員会活動予定

・　第２６０回運営委員会（２０２４年４月９日）　　会議室＋Ｔｅａｍｓ会議による審議

―― 以下計画 ――

・　第２６１回運営委員会（２０２４年５月１４日）　　会議室＋Ｔｅａｍｓ会議による審議
・　第２６２回運営委員会（２０２４年６月１１日）　　会議室＋Ｔｅａｍｓ会議による審議
・　第２６３回運営委員会（２０２４年７月９日）　　会議室（東京海洋大学）＋Ｔｅａｍｓ会議による審議
・　第２６４回運営委員会（２０２４年８月６日）　　大会リハーサル
・　会場設営（２０２４年８月２７日）

年次大会（２０２４年８月２８日・２９日）

１日目‥口頭発表、ポスター発表、ＩＰＳ’２４（講演＋パネルディスカッション)、交流会

２日目‥口頭発表、論文賞講演、総会、理事会

発表数（現時点)：口頭発表２１件、ポスター発表２２件、ＩＰＳ講演３件、論文賞講演１件

・　口頭発表のオンデマンド配信（Ｗｅｂサイト掲示）　２０２４年９月４日～２０２４年１０月３日
・　ポスター概要発表のオンデマンド配信（Ｗｅｂサイト掲示）　２０２４年９月４日～２０２４年１０月３日
・　第２６５回運営委員会（２０２４年９月１０日）　　会議室＋Ｔｅａｍｓ会議による審議
・　以降の日程詳細は未定

（２）第３４回年次大会について

・　日程：２０２５年８月下旬（予定）
・　会場：東京海洋大学　越中島キャンパス（予定）

長期的活動方針

包装は、食品や日用品、電気製品、医薬品などの様々な物品を輸送・保管中の数々の劣化要因から守り、使用・消費者のもとへ最良の状態で届けるという必要不可欠な役割を担っている。包装界の今後の研究開発と世界に誇る日本の包装学、包装産業の発展に貢献できる年次大会とすべく万全の準備を整えていく。

他委員会との協働

広報委員会との連携を密にして日本包装学会の年次大会を周知していきたい。

３－５．広報委員会

（１）１年経過後の論文掲載、学会誌掲載直後アブストラクト部分の掲載のタイムリーな掲載化

投稿された論文を広く認知していただくため、タイムリーに掲載することが必要と考えられます。そこで、事務局より毎号学会誌ＰＤＦを広報委員会へ頂き、ＨＰへ掲載すべき論文を編集し、アストラザスタジオ様へ依頼する役割を広報委員会で行うことにいたします。

Ｖｏｌ．３３　Ｎｏ．２（２０２４）より実施）

（２）第３３回年次大会を撮影し、学会ＨＰへの情報公開、東京パック等へのＰＲ活動

大会運営委員会へお願いし、年次会大会当日の様子を撮影させていただくことにいたしました。

この情報を基に、学会の活動としてＨＰへの掲載補足資料、学会ＰＲ資料として活用いたします。

（3）東京パック出展　２０２４年１０月２３日～２５日　東京ビックサイト
・　アストラザスタジオ様に掲示用パネル作成依頼予定（予算計上）
・　年次会の開催模様を動画でＰＲ予定

長期的活動方針
　広報委員会として、引き続き学会の活動内容を内外に伝え、学会所有の技術情報の有効活用を目指す。またこれらの活動を通じ、会員増加に努める。

他委員会との協働
　編集委員会、大会運営委員会と連動し、投稿者参加者の研究成果を効果的にホームページ上で提供します。
　大会運営委員会の方針に従い、年次会の開催状況について広報活動を進めます。

３－６．国際交流委員会
　２０２４年４月に３人の講演者が決定した。今後は、講演者とやり取りしながら、ポスター、原稿、宿泊先・旅費などの準備を進める。また、ＩＰＳの開催記録として、学会誌の特集号に掲載する原稿の準備も進める。

長期的活動方針
　ポストコロナにおいて、ＩＰＳに加えて、どのような国際交流を行うことができるか議論を進める。

他委員会との協働
　２０２４年のＩＰＳの開催に向けて、大会運営委員会と連携しながら、議論を進める。また、ＩＰＳの開催には予算を確保する必要があるため、財務委員会とも連携を図る。

３－７．学会賞等選考委員会
・　２０２３年度は、学会賞、奨励賞の推薦がなかったので、年度末までに学会賞、奨励賞推薦の掘り起こしを行い、学会賞、奨励賞、論文賞、功労賞について、授賞選考を行う。
・　日本包装学会賞等選考委員会内規の第２条で、委員会は選考委員１１名で構成するとあるが、現状欠員があるため委員を充足させる。

３－８．財務委員会
・　支出削減による収支バランスの健全化
・　毎月の財務状況確認による健全な財務運営
・　各委員会活動を支援可能な予算の作成

３－９．総務委員会
　総会、理事会、会長補佐会議の事務局として、効率的な学会運営を進める。学会活性化、財務健全化に向け、会長補佐会議、理事会での討議を進めていく。